

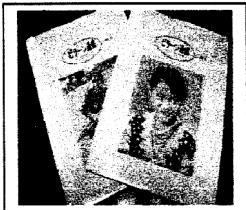
力をあわせて10周年!

事務局からのご挨拶

山崎登美子

「会の設立1996年7月1日、NPO 法人格取得2000年10月12日」。各種書類でまず求められる会誕生の日付です。活動を始めて丸10年、法人として6年が経過したことになります。何かをなし終えた10年というエポックではありませんが、これまでを振り返り、今後を考えるきっかけになればと、本年5月の総会では、過去の活動をコンパクトにまとめた冊子作成を含めた10周年関連事業計画と予算が承認されました。

写真などの資料整理が必要な冊子作りは早くて年明けになりそうですが、記念の集いとカレンダー作成は2006年の中にと、去る10月21日の記念イベント(報告P3)開催になりました。



古川理事の発案・担当で「ビラーン通信」バックナンバー集も8部完成しました。その1号(8月10日付)には医療支援会員数15名、

教育支援を始めた同年12月の3号には22名が41名の小学生支援開始とあります。

これらの医療・教育分野の定期支援はカトリックミッション(現 CMIP)を通じての活動です。サムラング村での巡回診療、常備薬配備、ヘルスワーカー駐在が、今は15村ほどに広がりました。月額650ドルの経費は、46名の医療自立支援会員によって支えられています。当初41名の小学生支援から始めた奨学金の受給者は、今年度小学生58名、ハイスクール生徒43名、カレッジ・専門学校25名となりました。

私たちの活動が当面のニーズに応える医療支援だけでなく、人材育成、伝統技術を生かした女性の経済的自立、持続可能な傾斜地農法推進など、先祖伝来の土地で収入を得られる支援へと広がる中で、信頼できる複数の現地パートナーとの協働が始まりました。これらの連携構築の過程はそのまま私たちの活動の軌跡を示すものとなっています。以下紹介させていただきます。

<カトリック先住民族ミッション CMIP(旧 CMB)>

伝道目的だけでなく、社会的正義実現という立場で土地喪失や貧困問題で苦しむ住民とともに働いていた Fr. Bitoy と出会って10年、担当神父は代わっても、ミッションは最も支えが必要な村へ、人々のもとへ私たちを導いてくれました。橋のない川を軍払い下げのトラックで36回渡った先で巡回診療を行うなど、CMIPとともに歩むことで、今も日本の市民の「お互いさま」を届けることができます。

<女性の健康と開発のための組合 COWHED>



民族の伝統織ティナラック他のハンディクラフト技術を持つ女性の組合 COWHED とは、織りの技術を若い世代に伝える研修や販路拡大で6年前から協力しています。生活向上を全組合員(約100名)が実感するにはまだ多くの課題克服が必要で、重責を担って苦悩する組合長メルチさん(写真)他スタッフをどうサポートするか賢明な対応が求められています。

生活向上を全組合員(約100名)が実感するにはまだ多くの課題克服が必要で、重責を担って苦悩する組合長メルチさん(写真)他スタッフをどうサポートするか賢明な対応が求められています。

<先住民族のパートナー PFP>

先住民族が先祖伝来の土地保証(CADC)を受けられるように、また、開発資本の誘いを蹴って持続可能な農業で経済的に自立する道を選択できるように指導・支援する PFP の姿勢は、HANDS の目指す道と重なり、2002年からブラクール校支援やアグロフォレストリーの実施などで協力しています。代表のロニーさんはじめ各スタッフは、住民組織化及び農林業指導の豊富な経験を有していて頼りになるカウンターパートです。

<パササンバオ総合医療サービス PIHS>

貧困に加えてイスラム系民族への差別が原因で医療サービスを受けられないサンギルやマギンダナオなどモロ民族の村で働く PIHS(代表は看護師のナプサさん)との協働は今年5年目になりました。薬草利用や鍼灸などの代替医療、保健ボランティア育成による地域医療推進は、ビラーン地域にも広げたい理念、システムです。